

心優しきハーレーサンタ ～子どもたちの笑顔あふれる社会に～

—『ハーレーサンタCLUB名古屋』—

12月23日、名古屋の中心街を走り抜ける約200台のオートバイやアメ車に乗ったサンタクローズの集団を見かけたことはありますか？ オレンジリボン児童虐待防止啓発活動の一環として行われる「Xmastイラン in Nagoya」です。トイランを主催する「ハーレーサンタCLUB名古屋（以下、ハーレーサンタ）」の代表・富田正美さんにお話をうかがいました。

転機は阪神・淡路大震災

1995年の阪神・淡路大震災、その直前に大阪や京都に行っていた富田さん、自分が滞在していたところにも被害が出ているのを見て、他人事には思えなかった。がれきがあり車は通行できないという話も聞いたが、オートバイなら行けるのではと思い、積めるだけの荷物を載せ、現地に向かったそうだ。すると涙を流して喜んでくれる人がいた。泣くほど感謝されるという経験に電気が走り、このときの思い・経験が転機となった。

その少し前に、愛知県西尾市中で中学生がいじめを苦にして自殺するという悲しい事件が起こった。当時、教育委員会に勤務していた富田さんは、震災での活動を経て「人のために役立つことをやるのが公務員の仕事」と実感し、「今、現場に出たら、どうだろう」と思った。それ以来、いじめや不登校に関する団体、障がいなど困難を抱える子どもたちの団体、さらに少年院出身者の更生を支援する団体にも出かけていき、そして児童養護施設も知った。「そこには事情があって育てられない子もいましたが、どちらかと言うと、親に愛されていない、見放された子が多かったです。それまで出会った子どもたちは、いじめられているにしても、不登校にしても、親は子どものことに一生懸命でした。でも児童養護施設には、その関係性すら持たない子どもたちがいました。世界中で誰でもいいから、この子たちを思っていてくれる人がいて欲しいと切実に思いました。そこから、『児童虐待をなくしたい』と思うようになりました」。

オートバイ × 社会貢献

活動を始めるにあたり、まずは特定非営利活動法人CAPNA（子どもの虐待防止ネットワーク・あいち）を訪ねた。CAPNAはどちらかと言うと高齢の方が活動の中心で、若い人の関わりがあまりないことがわかった。また広報が苦手ということで、富田さんが広報の役割を担うことにした。そこで、「子どもの虐待防止」のシン

ボルマークである「オレンジリボン」の知名度を上げようと動き始めた。「もともとオートバイが好き。でもオートバイに対して悪いイメージを持っている人も多い。だから、それを使って社会貢献したい!」と考えたのだ。そこで、自分のオートバイのタンクをオレンジ色に塗った。次に、オートバイ仲間、オレンジ色のタンクのオートバイに乗っている人に協力を呼びかけ、イベントなどでオートバイを並べた。カッコいいオートバイが並んでいると、人が集まってくる。そこで、オレンジリボンの啓発活動を行った。

そんな時、東京に、サンタの格好をしたオートバイ乗りたちがクリスマスに児童養護施設を訪問している団体があることを知った。代表に会いに行くと、同じ思いを持っていることがわかり意気投合。東京と名古屋で同じ活動をしているということが見て分かるようにしよう、オートバイに「虐待をなくそう」とメッセージを付けようなど、話し合った。それが2009年10月。準備を考えると、1年先送りしようかという話も出たが、「数名だけでも、とにかくやろう!」と、すぐに準備を始めた。当時よく使われていた「ミクシィ」で参加者を募ると、50台くらいが集まった。参加してくれた人の中には、「近所に児童養護施設があるから、本当のサンタみたいにプレゼントを持って行ってみようかな」と言ってくれる人まで出てきた。

この活動で、思いがある人はたくさんいるということがわかった。「知って、何かを感じれば、人は動く。だから、まずは知ってもらうこと。そのためには、ハードルを低くして、楽しそうと思ってもらいたい。楽しそうなら、関心がない人も参加したくなる。だから、真面目にふざけていきたい」と、富田さん。

ハーレーサンタの仲間たち

現在、ハーレーサンタは月に2回の定例ミーティングを行っている。トイランだけではなく、さまざまなイベントでの啓発活動についての打ち合わせや配布物の準備をしている。メンバーは全員が社会人で、ミーティングに参加するのは毎回15人くらい、7～8人のときもある。

名古屋市外から参加してくれているメンバーもいるそうだ。ミーティングに参加させていただくと、皆さん、そこでメンバーに会えることを楽しみにしていることがよくわかる。

参加していたメンバーの皆さんにお話をうかがった。友人を通じてハーレーサンタの活動を知ったという女性は、参加し始めたばかりとのこと。「行けそうなところ、行けそうな時に参加しています。ここに参加していると、いろいろな人に出会います。そんな活動をしている人もいるんだあと、新しいことを知ることもできます。パレードは見たことがないので、今年のトイランが楽しみ!」と話してくれた。

参加して3年目になるという女性は、トイランを見て興味を持ったが、すぐには参加せず、しばらく（2年くらい）様子を見てから参加したそうだ。今は事務局として活動を支えている。年間を通して参加する人を増やしたいという思いで、今年から定例ミーティングを始めたそうだ。

そして、1回目のトイランから参加しているという男性は、もともと富田さんのオートバイ仲間。仕事の都合上、ミーティングなどに参加できるのは秋以降とのことだが、豊川から参加している。これまでの活動の中で一番印象に残っていることをうかがうと、「初めてトイランに参加した時の感動は今も覚えている。オートバイに乗っていると、ちょっと怖いイメージを持たれることもあるけど、トイランでサンタの格好でオートバイに乗ってパレードをした時、街の人が手を振ってくれた。それは涙が出るほどうれしかった」と話してくれた。

Xmastイラン in Nagoya

トイラン当日は、午前中にセレモニーがあり、そのあとパレードが始まる。富田さんは、毎年セレモニーの最初に参加者への感謝の気持ちを伝えているそうだ。「みんな、時間とお金を割いて来てくれている。だから、まずは感謝を」と話す。その後、CAPNAの方から児童虐待の現状について説明があり、虐待経験のある当事者に話をしてもらう場面も作っている。当事者の話は参加者の心に響く。参加者は、何のためにパレードをするのか、何をPRするのかをしっかりとわかってパレードに出発していく。「本当なら子どもたちが一番楽しいはずのクリスマス。そのうらで、寂しい思いをしている子どももいるということを知ってほしい」。そんな思いで、今年も名古屋の街をハーレーサンタが走る。



ミーティングの様子



ミーティングに集まった皆さん

Information

ハーレーサンタCLUB名古屋

E-mail:nagoyatoyrun.iinaa@gmail.com HP:https://nagoyatoyruniinaa.wixsite.com/harley-santa-club758

☆イベント

第9回 Xmastイラン in Nagoya バイカーズパレード 共催:NPO法人 CAPNA

■12月23日（土・祝）
13:00～

別院を出発し、栄・大須の街を走ります。



昨年の様子。前日の雨でできた水たまりの水をスポンジで吸い取り、集合場所を整える



昨年のパレードの様子